

# 令和5年度 新潟県 英語教育改善プラン

## 目標

- CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定している学校を100%にする。
- 「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」を評価するパフォーマンステストを実施する学校を100%にする。

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①英語教育実施状況調査の結果について、R4でCAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定している学校は、R3と比較して79.4%→83.4%、目標を公表している学校は34.6%→59.9%、達成状況を把握している学校は69.3%→80.4%とそれぞれ向上した。

### 未だ改善が必要な点

①児童の英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている学校の割合は、R3と比較して91.4%→89.4%となった。  
②「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」を評価するパフォーマンステストを実施している学校の割合は、R3と比較して99.5%→98.9%となった。

## 2. 分析

①小中高の「新潟県英語スタンダードズ」（CAN-DOリスト形式による学習到達目標）を作成し、各校に配付した。  
②R2・R3の「外国語教育推進のための授業改善モデル事業」の成果をブックレットにまとめ、各校に配付した。

①②上記①②により、CAN-DOリスト形式による学習到達目標に基づいて単元の指導計画や評価計画を立てることの重要性についての教師の認識が高まっている。しかし、パフォーマンステストの設定や言語活動が不十分な学校があり、さらなる改善が必要である。

## 3. 施策・事業

①②「外国語教育推進のための授業改善モデル事業」の成果を今後も継続して普及するため、「外国語授業づくりオンラインワークショップ」を行い、小学校3校の実践発表を行う。

①「英検ESGを活用した児童生徒の英語力向上事業」を行うことで、児童の英語発話を促すとともに、児童の意欲向上を図る。

①②「小学校外国語実践講座」（80名参加）および「小学校英語専科教員情報交換会」（地区ごと、県で50名）を行う。教師の意識向上を図るとともに、教師同士の横のつながりを大切にして、教材やパフォーマンステストに関するアイデアを共有できるようにする。また、教科教育専門監・英語教育推進リーダーを活用し、各地区で授業づくりや授業改善の向上を図る。

○一定の英語力を有する教師を採用できるよう、TOEICやTOEFL iBT、実用英語技能検定等で一定の成績を有する場合に、教員採用選考検査の一次検査で加点を行う。

# 令和 5 年度 新潟県 英語教育改善プラン

## 目標

- CEFR A1(英検 3 級程度)の英語力を有する生徒の割合を60%にする
- 全国学力学習状況調査の正答率で全国平均を 2 ポイント上回る

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①英語教育実施状況調査の結果で、R4でCEFR A1の英語力を有する生徒の割合は、R3と比較して37.5%→43.9%となった。  
 ②同様に、CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定している学校は、R3と比較して100%→100%、目標を公表している学校は41.6%→77.5%、達成状況を把握している学校は61.3%→88.4%となった。

### 未だ改善が必要な点

①生徒の英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている学校の割合は、R3と比較して69.3%→67.0%となった。  
 ②授業における英語教員の英語使用状況は、R3と比較して68.8%→64.1%となった。

## 2. 分析

①教科書に準拠した「新潟県英語スタンダード」(CAN-DOリスト形式による学習到達目標)および「小中連携カリキュラム」を作成し、各校に配付した。  
 ②R2・R3の「外国語教育推進のための授業改善モデル事業」の成果をブックレットにまとめ、各校に配付した。  
 ③思考力・判断力・表現力を問う「Web診断問題」を活用して授業改善を図った。

①②CAN-DOリスト形式による学習到達目標に基づいて単元の指導計画や評価計画を立てることの重要性についての教師の認識が高まっている。しかし、パフォーマンステストの設定や言語活動が不十分な学校があり、さらなる改善が必要である。

## 3. 施策・事業

①②「外国語教育推進のための授業改善モデル事業」の成果を今後も継続して普及するため、「外国語授業づくりオンラインワークショップ」を行い、中学校 4 校の実践発表を行う。

①県内の全中学校の全生徒を対象に「英検 IBAを活用した児童生徒の英語力向上事業」を行うことで、生徒の意欲向上を図るとともに、生徒の英語力を教師がより適切に把握できる一助とする。

③今年度より「にいがた学びチャレンジ」と改称し、問題演習と言語活動を紐づけた形で各学校の授業の中で実施できるようにする。

①②「中学校英語科主任研修」(84名参加)を行う。教師の意識向上を図るとともに、教師同士の横のつながりを大切にして、教材やパフォーマンステストに関するアイデアを共有できるようにする。また、教科教育専門監・英語教育推進リーダーを活用し、各地区で授業づくりや授業改善の向上を図る。

# 令和5年度 新潟県 英語教育改善プラン

## 目標

- CEFR A2（英検準2級程度）の英語力を有する生徒の割合を60%にする。
- 授業中における、英語担当教員の英語使用率を80%にする。

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①「話すこと」及び「書くこと」を評価するためのパフォーマンステストとして、スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合が、R3と比較して34.4%→47.8%となった。

### 未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベルの英語力を有する生徒の割合は、R3と比較して46.3%→46.9%と微増したが、全国平均の48.7%にも届いていない。
- ②授業における、英語担当教員の英語使用率が50%以上を占める学校の割合が、R3と比較して40.9%→34.4%と減少した。

## 2. 分析

①左記に加え、CAN-DOリストの公表の割合が、R3と比較して38.5%→53.7%と向上、達成状況の把握が、36.3%→43.8%と向上したことから、指導と評価の一体化はある程度進んでいると考えられる。

- ①外部試験を受験したことがある生徒の割合が、R3の53.3%に対し、R4は45.4%に留まったことによる影響がある。
- ②新型コロナウイルスによるオンライン授業等の影響もあったが、依然として言語材料の文構造や文法事項を日本語で指導することが中心となっている。

## 3. 施策・事業

①英語発信力育成研究事業の指定校におけるパフォーマンステストのモデルとなる指導方法を、全県の教員が参考とし、活用できるように、Googleドライブにアップした。今後も、指定校の取組を県全体で共有し、各校での活用を促進する。

- ①CEFR A2、B1の英語力について、研修において教員による共通理解を図り、生徒が卒業までに求められる英語力を有することができるよう、各校で3年間を見通したCAN-DOリストを評価につなげていく。また、好事例を冊子にまとめ、各校の実践につなげる。
- ②「授業は英語で行うことを基本とする」ことの趣旨を改めて周知し、研修等で実践を共有する。英語発信力研修や、ディベート・ディスカッション指導実践講座、英語発信力育成研究事業を充実させることで、全体の底上げを図る。